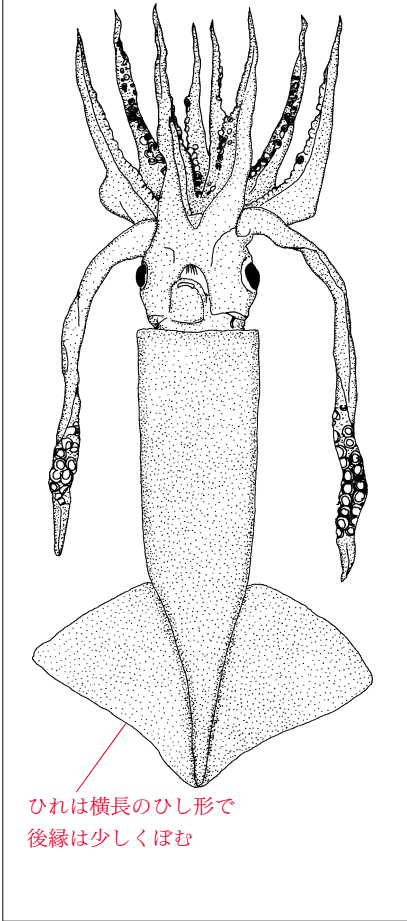


ツツイカ目 Teuthoidea  
アカイカ科 Ommastrephidae



## 84. アカイカ

*Ommastrephes bartramii*  
(Lesueur)

図版33

英名 neon flying squid  
オマストレーフエス バルトラーマ  
露名 оммастрепфес Бартрама,  
кальмар Бартрама  
カリマル バルトラーマ

地方名(北海道) ムラサキイカ、  
バカイカ  
漢字 赤烏賊

**【形態】** <sup>がいとうまく</sup>外套膜\*は円筒形で、その背中側中央に赤く縁取られた黒の幅広い縦帯\*がある。ひれは横長のひし形で後の縁が少しくぼむ。第3腕\*の基部には保護膜と呼ばれる薄い膜が発達する。漏斗溝\*には、縦のみぞとポケット状のひだがある。

**【生態】** 世界中の暖水域に分布。日本海にはほとんど分布せず、まれに漁獲される程度。北太平洋のアカイカは、東経170度付近を境に東西2つの系群\*に分かれると考えられてきた。しかし最近では、東西の系群は存在せず、生まれた時期の異なる

冬春季発生群と秋季発生群の2つの系群があるとする考え方が一般的。

日本近海で漁獲されるものは冬春季発生群がほとんどで、これらの産卵場は成熟\*個体と幼生\*の分布状況から北緯35度以南の沖合にある黒潮反流\*域と推定されている。冬から春にふ化した稚仔\*は、春から夏にかけて黒潮\*を越えて北上し、北海道東部太平洋沖に達する。秋には水温の低下とともに南下する。一生を回遊\*してすごし、夜間は表層、昼間は400mより深い所へと非常に大きな日周鉛直移動\*を行う。

アカイカはスルメイカと同様、性成熟\*は雄が雌よりも早く、先に性的に成

熟した雄が、未熟\*な雌の口の周りに精子の塊<sup>かたまり</sup>を植え付ける交接\*と呼ばれる精子の受け渡しを行う。卵塊\*はゼリー状で目立たないこともあり、海で採集されたことはない。2本の触腕\*がくっついたふ化直後の幼生は、リンコトウチオン\*幼生と呼ばれる。寿命は一般に1年とされる。

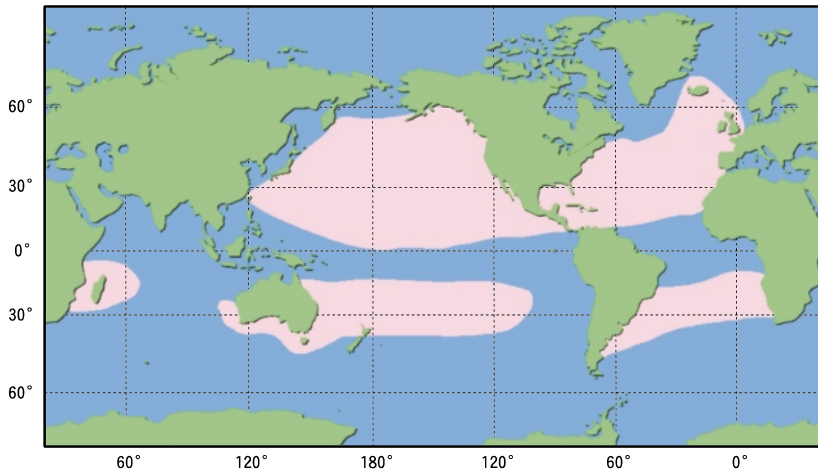
ふつう、冬春季発生群より秋季発生群の方が大きく、また雄より雌の方が大きくなる。イカ類には短期間で大きく成長する種\*が多く、アカイカも最大外套長\*は雌で50cm、雄で40cmほどに達する。

南東太平洋にすむ近縁のアメリカオアカイカ *Dosidicus gigas* は、外套長1mを超えるものもある。

アカイカの幼生の食性はよく分かっていない。成体\*は、動物プランクトンや魚類のほかイカ類も食べる。外套長30cmを超えた大型の個体は、ハダカイワシを多く食べるという。アカイカもほかの多くのイカ類と同様に、触腕を使って餌を捕らえる。アカイカの触腕は切れてもまた再生するといわれ、再生中とみられる触腕を持つ個体が見つかっている。

外套長10cm台のアカイカが群れをなして海面から1～3mの高さを5秒間ほど、距離にして10～20m滑空する姿が三陸東方沖で目撃されている。この行動は外敵からの逃避行動と考えられている。

飛ぶイカとしては、太平洋とインド洋の温・熱帯域に分布するトビイカ *Sthenoteuthis oualaniensis* が有名。



世界におけるアカイカの分布 (奥谷、1995を一部改変)